

一九七七年二月一日第三種郵便物認可

ホームページ

<http://shakaitusushin.cool.coocan.jp/>

発行所 社会通信社

発行人 滝野 忠

e-mail: shakaitusushin@nifty.com

東京都渋谷区本町六丁目一八の二コーポル幡ヶ谷九〇四 電話/FAX(03)3299-5367  
振替 0010019158431 労金 中央労金本店 No.1154163

購読料 月額 (郵送) 350円・メール 175円)

6カ月前納制

## 〈もくじ〉

### ■巻頭言■

組織 拡大が焦点

滝野 忠……2

組合大会の特徴について

扉温泉 明神館と国労甲府支部

蓑輪 泰臣……3

―「弥次喜多道中」第四弾 信州松本の旅(下)―

「闘う国労運動再建」へ一歩

国労上野反合研……7

―国労結成70周年の歴史的な大会―

憲法 そして施設障害者抹殺事件

里内 龍史……9

―脳性マヒ者「茨城青い芝の会」里内さんに聞く―

読者からのおたより……………11

# 旬刊 社会通信

NO. 1223

二〇一六年九月一日号

二〇一六年九月一日発行  
(毎月一日・二五日二回発行)

## 組 織 拡 大 が 焦 点

## 組合大会の特徴について

七月参院選、参院戦前のJR総連、JR連合、JP労組、電機連合大会、自治労中央委等は、選挙一色。「まだ当選にいたっていない、呼びかけ、集票活動を」と。結果は八勝四敗、連合会長組合（鉄鋼・造船）は落選、事務局長組合で百五十万組合員をもつ日本最大の組合・UAゼンセンは十九万票のつかつかつ当選。労組が組合員いかに信頼ないかを示す。総決算は連合組合六八六万人に一二の大労組候補が得た得票はわずか二一一万票、率にして三〇・七%にすぎぬ。厚労省、財界は「組合さん、だらしなない」。「彼らの要求てやらを政府主導でやってやる、最低賃金引き上げ、同一労働同一賃金、長時間労働も」「これで労組の影響力はさらに衰え、政治は安泰」と。それが「一億総活躍社会」構想である。

労組は日銭を求める。目先の一円にこだわる。それも大事だ。財界・政府・権力は搾取の度合いにこだわる。一円であるうが十円であるうが、搾取の度合いが強まれば損はない、得だど。お釈迦様（独占資本）の掌にあるのが孫悟空（連合傘下の多くの組合）が、悲しいけれど現実だ。組合機関紙・誌の記事は、資本との攻防をワキに置き、ボランティア、共済、レクに多くがさかれ、休廃刊、発刊体制変更にあらわれる。

連合は春闘で要求もしない。要求なくして争い、戦いはない。回答はコンマ以下だ。「物価ゼロ下でたいへんな成果」、「正社員、非正社員との格差が縮まった、これは大きな成果」と。背後ではささやかな賃上げと引き替えに、労働条件の引き下げが進む。このことを組合は伝えない。搾取率は高まり、資本はウハウハ。春闘の現実だ。

組合大会もう一つの課題は組織拡大だ。連合はふえたとドラ声張りあげる。ふやしているのは事務局長組合のUAゼンセンのみ。手法はユニオンショップ制で、企業の労働者をマルゴト組合員とする。組合員には組合員の自覚がない。それが一五〇万組合員なのに、組合内候補にたった一九万しか入らないに現れる。自治労にもいえる。組合員は八〇万、得票は一八万でしかない。

連合は一千万、全労連は一五〇万実現をスローガンとする。連合は生産性運動に賛成、資本と一体となり積極的に推進する。一六春闘では生産性三原則が連合「白書」を飾った。全労連は大企業優先の政治からの転換を方針とする。生産性運動については賛成とも反対ともいわない。生産性運動賛成は「合理化」に協力すること。「合理化」は人を減らし、剰余価値率を高めることに賛成を意味すること。「合理化」は、今の社会にあつては資本の生産性の向上として現れる。労働者の生活、労働を「便利」にしたり「軽く」することが目的でない。労働者を減らし搾取を強めるのが目的だ。「合理化」に協力して労働者が増えることはない、逆だ！ 組織を本当に拡大したいとするなら、生産性運動反対！ を真正面に掲げることだ。

政府・財界は少子高齢化、人口減を背景に猛烈に機械化を推し進める。IT・MEをさらに強めAI（人工知能）、IOT（自動化）である。熟練労働は単純化され、資本は非熟練労働者を市場に求める。さらに外国人労働者も。労働者間の競争は激しくなる。労働者間の競争激化は賃金を下へと引き下げる法則となる（滝野 忠）

## 扉温泉 明神館と国労甲府支部

―「弥次喜多道中」第四弾 信州松本の旅(下)―

### 明神館へ

二日目の朝を迎えました。中澤さんは十時にマイカーでのお迎えです。弥次喜多道中最大の目的「向坂逸郎を身近に、扉温泉、明神館へ」、松本駅から東へ四里あまり(一里は七キロ)、中澤さんから「向坂先生が戦後『資本論』の原本(ドイツ版)を背負って実際に歩いた道のりを忠実に進みましよう」ということで、旧道路(狭くなっている)をスイスイ(F1ドライバーみたい)と進み、今はなくなった「霞山荘」(先生が途中で宿泊された場所)を案内していただきました。「本当に歩いていけたのか」と思うくらい坂道が長々と続きます。途中の光景で山辺ぶどう園が目に入ります。このぶどうは地味が豊か、味がよいため高価との説明です。扉温泉に近づくとつれて道幅は狭くなり車一台がやっと通れる広さです。途中道路脇に少し幅のある箇所があります。中澤さんから「ここはゆき夫人が雪の日に来たとき動けなくなり車を置いたところです」との説明を受けました。(その時、ゆき夫人の優しく笑った顔が自然に浮かびました)。一人娘には夫人から「ゆき」の名前をいただきました。

昔は「獣道」ではと思いつつ扉温泉へ向かうと、車の前を「狐、いやたぬき、いやアナグマ」がわがもの顔で通り過ぎます。「なにしに來たと睨まれてしまいました」、死骸も一匹見つかり「獣道」間違いないと決めつけました。

十時四十分「扉温泉明神館」に到着です。

### 高級宿に変身

「昔の思い出が全くない」と滝野さん、中澤さんも「本当ですね」との言葉に納得です。貧乏人が学習会の合宿に使った田舎宿は、JRのジパング倶楽部の高級旅の宿、一泊数万円の高級旅館に変身しています。ここでも大資本と地方旅館の融合が感ぜられるのは、前号の「ホテル花月」と同じです。それでも「どこかに思い出ないですか」と聞いても、「ないね。先生の色紙もなくなったね」との返事です。

玄関先に「ヤマボウシ」の花がきれいに咲いていて、脇を小川が流れている。木彫りで「明神館」の看板がある。看板の前で記念写真です。周りを少し散歩して「明神館」とお別れです。

私、旅を実りあるものにと必死で勉強したんです。扉、行ったことがありません。いったいどんな所なんだと向坂先生の本を漁り続けました。ありました！『資本論をめぐりて』(労働大学、一九七七年刊)に、『資本論を訳し終わって』です。ここで勉強の成果を披露させていただきます。明神館と先生のかかわりです。

### 向坂先生と扉温泉

「終戦後、改めて『資本論』の翻訳をやるように岩波書店の長田氏から交渉を受けて、快く引き受けた。しかし、終戦とともに、にわかには身辺多忙を極めるようになって、なかなかかかれなかった。そしてその前におきたい仕事があった。それは、インフレ

ーションの研究であった。かつて第一次大戦後インフレーションのもっとも激しい時（一九二三年）ドイツにいた経験もあって、終戦後の日本の現実にぶつかって、どうしてもインフレーションの勉強をまとめなければならぬと思っていた。そのために、『資本論』の必要な部分を読みなおす仕事をやりたかった。

そこで、まず松本市に居住する同郷の画家松本昇氏をたずねて、どこか近くに静かに読書の出来るところをさがしてもらった。そこに島立村の百瀬嘉郎君がやってきて、松本市の東南四里位のところにある山の中の扉温泉がよかろう、ということになった。冬の寒い日だったが、百瀬君が荷物を自転車に積んで押し、私はそのあとについて歩いた。その日、雪が降り出したので、山に慣れない私のことを考えてくれて、途中の霞山荘という宿にとまった。翌日扉に登って行った。これが扉温泉に行ったはじめてである。」

「扉（とびら）温泉は、扉峠の下にある。今では峠までバスが通っている。四〇分位はかかるだろうか。温泉のあるところは二一〇〇メートル位の高さだから、夏でも夜はふとんをきてねる。冬は、雪はさほど積らないが、寒い。風呂場から自分の室までくる間に、手拭いは棒のように凍ってしまう。」

室内でインクが凍った経験はない。もともと、つねにこたつの上で仕事をしているのではあるが。ここは、薄（すすき）川という奈良井川の支流の上流にある谷間に一軒ある温泉地である。その少し上流にいま一軒宿があるだけである。淋しい位に静かなところである。だから、いったんここに入りこんでしまうと、仕事はよく出来る。もし東京を脱出してここにくることが出来なかつたら、『資本論』は、岡崎次郎君のこの上もない協力があったにしても、こんなに早く完成しなかつたであろう。東京の忙しさの中でも、出来ないことはなかつたであろうが、ずいぶん永い年月を要したことであろう。

それから、終戦後の数年の食糧事情の悪い時、百瀬君その他の松本市とその近在にある友人たちが、いたれりつくせりの世話をしてくれなかつたら、仕事がこのようにスムーズに進むことはなかつたらう。百瀬君は、どんな農繁期にでも、必ず自転車で食糧を運んでくれた。甘いものの好きな私のために、乾柿やアメまで用意してくれた。」

### そば屋そして城山公園、コンサート

「先生の散歩コース行きましよう」となり、美ヶ原美術館方面へ車を走らせ、途中車を止めて自然のさわの流れに手を入れて「先生もここで手を洗ったのかな」と独り言。そろそろ下山です。車は松本へと進みます。「お昼は向坂先生行きつけの蕎麦屋二軒があるので行きましよう。」とのお話、途中で中澤さんの畑に寄り、野菜をお土産にいただく。「向坂先生は蕎麦の注文をしたのはいいが、蕎麦屋で同行の石井柏亭画家と論争になり、『一緒に食べない』と言って食べずに出て行った」との裏話を聞きながら「こぼやし」「弁天」を案内していただきました。なお、九大の学生たちと一緒に行った蕎麦屋は「女鳥羽蕎麦」だそうです。現在も営業中です。食事は「石井画伯と激論になった」弁天蕎麦屋となりました。

この日の夜は「演奏会」に行く予定です。その前に向坂先生が好きでよく散歩に行つたところ、「西城山」へ車を走らせませす。現在の「城山公園」に到着です。「この

公園、小島恒久先生も来松の折に『城山を案内してほしい』と言っておられました。」とのこと。公園内は桜の木がいっぱいです。展望台があり、ここから北アルプス、松本平を眺めるのは最高の場所です。感動ものですよ。

旅の中で紹介された向坂先生ゆかりの場所は、「徳田医院」です。向坂先生が腎臓結石でお世話になった病院です。ちかぢか壊されるとのことです。フランス料理店（鯛萬Ⅱたいまん）、うなぎ屋（まつか）「先生だいすきでしたよ。」とのこと。かえる通り（松本城近くの露天商街）から近いところにあります。

夜は、中澤さんと長いお付き合いがあるピアノニスト青木資子さんの「チェロ・ピアノ・二十五絃箏ジョイントコンサート」の演奏会を堪能、「こころの健康を取り戻した一瞬でした」。夕食は昨夜と同じ「しずか」、論争の「おでん」を中心に日本酒を飲みながら「旅」を語り合いました。

松本出身、岩井章といえば「頭が良く、スポーツマン、ガキ大将」とのことでした。開智尋常の成績は紹介しましたが、尋常小学校五年生の作文「市内全てのクラスから一点が選ばれて掲載されるシステム」で「お菜洗ひ」が採用され「小さな花」に掲載された（前号資料参照）。この作文に書いてある松嶋橋の川を見学することができ写真も中澤さんに撮ってもらいました。

### 岩井さんと向坂先生 革命的楽観論

向坂逸郎と岩井章の接点はどこにあるのか、岩井章は向坂逸郎をどう見ていたのか、私の関心事でした。そこで、この機会に改めて『ひとすじの道50年』（一九八九年九月 葦輪泰臣Ⅱ岩井章のサイン入り）から――

「私は先生の直系の弟子ではない。外様である。しかし、私の生涯の労働運動で最も大切なことは先生から教えられた。直接話を聞き、さらには歴大な著書を通してである。

向坂先生の革命的楽観論にもおおいに教えられた。『人生は楽しい』という著書があるが、私もようやくその気持が理解できるようになった。先生が亡くなる数日前、東京女子医大の個室を訪ねた。奥さんが『岩井さんですよ』と耳もとで言うのと、握っていた私の手を弱い力だったが握り返した。頑張れよと言っているように。

先生の歴大な著書はとも私ごととき者には読みきれもしないし、理解することも難しい。しかし、死ぬまで労働者の解放を念じていた先生の意思をすこしでも生かしたいものだと思っている。」

### 宮坂要さん

二泊三日の旅も大詰めです。十時甲府駅で宮坂要さんとの待ち合わせ。松本をあとにしてあずさ号に乗車、所定時刻よりも早めに甲府駅に到着。待ち合わせ時刻が刻々と近づくもなかなか現れない宮坂さん。「お忘れかな」と電話するもつながらない。不安がつのりはじめたその時、「愛くるしい笑顔」の宮坂さんがすぐ横に立っているではないか。「いたいた滝野さん」と声かけて、無事に「対面」です。

宮坂さんは、私のことをご存知ないようでしたので、「激動の二七年前、私の『結

婚を祝う会』でスピーチをいただきました。」とご挨拶、「そうでしたか」とやはり覚えがありませんでした。早々に近くの喫茶店に入り、向坂逸郎、岩井章の思い出話を聞くこととしました。

宮坂要さんは一九八七年分割、民営化攻撃の中、国労本部書記長に就任する。「まさか東京に行くとは思わなかった」と振り返る宮坂さん。国労甲府支部は岩井さんの出身支部、宮坂さんは横浜の職場から転勤して甲府へ、「甲府に来て岩井さんの影響力の強さを感じた」。岩井さんが総評事務局長をしていた頃を知る先輩たちは、「岩井ならこう言うだろう」「岩井ならこうする」と、問題が起きるたびに「岩井だったら」と誰もが話をしていた。国労運動の中で岩井さんの信頼は大きかった。

八重洲にあった国際労研（岩井事務所）によく行った。岩井さんと直接話すことが多かったが、岩井さんは「ああしろ、こうしろ」とは一切言わなかった。こちらが聞くと答えてくれた。甲府支部から来た者だから話してくれたと思う。

六九年岩井さんは熱海に転居された。私は甲府で専従を長くやっていたが、岩井さんが長野に帰るときよく寄ってくれた。それも無通告で。本人から話を聞いたことが一番良かった。

### 大川労働学校 国労反合研

大川に国労の労働学校があった。初代学校長は岩井さんだ。国鉄闘争が闘えたのはこの労働学校があったからと言える。岩井さんは言う「終わったことは終わったこと。大切なことは次をどうするか常に考える」と教えてくれた。大きな目で見ることの大切さ。先々を見ていた。

国労反合研は労働運動の基礎を作った。「西ヶ原」の宿泊所で夕方六時三〇分に集まり夜中零時まで話し合った。向坂先生、灰原さん毎月同席していた。向坂先生は夜中の零時になるとお迎えが来て必ず帰られた。その後二時から三時頃まで飲み会、みんな若かった。灰原さんは夜中いつまでも付き合っていたのだ。

反合研の議論は「この本質をとらえる議論であった」。若い人が多く集まり過激な発言をする人もいた。若い人の悪い発言は聞き逃さなかった。向坂先生はこの発言に問い詰める議論をしていた。

六九年末反合研ができた。マル生闘争の前段である。直前に出来た。マル生闘争、国鉄闘争を支えたのは「反合研」、学習と交流が共通している。六九年国労函館大会で中川委員長「座して死を待つより立って反撃に転じよう」の発言は、反合研の人たちの発言が支える原動力であった。向坂先生宅に毎年正月に反合研メンバーで行っていた、正月でも酒は出なかった。お茶とお菓子だった。

岩井さんは日本酒が大好きだった。なんでも飲んだ。麻雀、碁・将棋も好きだった。麻雀は仲間作りと言っていた。岩井さんは総評事務局長時代、向坂先生とよく相談していた。座談会で向坂先生が岩井さんの話を聞いていて「よく勉強しているね」と感心していました。

時間が来ました。宮坂さんの話を聞き、向坂、岩井両社会主義者の深い信頼での結びつきを感じることができ、弥次喜多道中（松本編）終着駅とします。（養輪 泰臣）

## 「闘う国労運動再建」へ一歩

― 国労結成 70 周年の歴史的な大会 ―

国労結成 70 周年の大会となる第 85 回全国大会が、七月二十八日～二十九日、群馬県伊香保で開催された。「異端児と言われた高崎地本」（地元出身元参院副議長角田義一さんの来賓あいさつ）での開催は、国労の歴史の中で初めてだという。これまでの全国大会の「常識」を破る「傍聴制限」のないオープンさ、それでいて、大会成功への意気込みに満ちた高崎四十数名のスタッフの頑張りにより、「闘う国労運動の再建」に向けた第一歩が記された大会となった。

国労弁護団の宮里邦雄弁護士は、労働契約法 20 条東京地裁判決の説明（前号参照）をするとともに、「国労運動の良さ・正しさ」として、①組合員一人一人の権利を大切に組合である、②職場に労働運動、原点は職場。本部指令ではなく職場に基礎を置く、③学ぶことを大切に。権利闘争の学習の中で意識を高めてきた。国労の財産、労働者が学びあう学校になっている、④民主的組織運営。議論のある組合は強い、自由な議論を通してまとめていく、⑤企業内だけでなく地域に出て国民と連帯する。少数になっても物を言う少数派は、組合の存在意義がある。少数だから言わないと、更に少数になってしまう、といった点をあげ、大会参加者を激励された。

### 昨年、執行部を放り投げた旧主流派は、嫌がらせに終始

大会で旧主流派は、現執行部への敵意と、闘わない本音だけをむき出しにした。くだらないことでねちねち責任を追及していたが、本紙では、闘いにとって重要な論点だけを報告し、解説する。

第一は、坂口智彦委員長の挨拶への難くせである。その一部分、「第 71 回大会（二〇〇三年）で統制処分された鉄建公団訴訟原告団二二名への謝罪と処分撤回による名誉を回復したい。鉄建公団訴訟判決が一〇四七名の突破口を開き、闘争団の団結回復、最終的な解決への扉を開いた」（要旨）について、「大会決定を委員長挨拶で取り消しているのか？」と西里代議員（新幹線大阪）らがかみつき、中央執行委員会等が行なわれた結果、この部分は挨拶から削除された。

国鉄闘争がどのような闘いによって解決できたのか、いまだに総括できない旧主流派にとって、自らの派閥の基盤を揺るがしかねない総括は表に出てもらっては困るということなのだろう。今回は削除されたが、委員長の気持ちだけで十分であり、削除された部分を逆に共有財産にしたい。

第二は、横森代議員（東京八王子）らによる修正動議（「各エリアと JR 各社が労働協約を締結してきた全国的な現実を踏まえ、責任をもって運動を構築できる体制を強化し、組織の展望や運動の展開、ナショナルセンターとの連携の強化」（要旨））であるが、これは、二年前の大会でとつじよ提案された「運動方針案の補強」に瓜二つであり、「JR との労使関係」に未練を抱き、「①国労の連合体化（企業内組合化）②国労の名称変更 ③連合加盟」の三点セット（要するに、資本と闘わない労使協通路線 || JR 各社の思惑）を指す「党員協」の路線そのものである。

第三は、小林代議員（盛岡）らによる修正動議の問題である。「ストライキ等の戦術は中央戦術委員会での協議を踏まえ中央執行委員会で判断する」との方針案を、「ストライキ等の戦術は、国労規約26条に基づき、運動の指導調整と戦術判断を行うため中央戦術委員会に委ねる」に修正せよ（要旨）という。

少しややこしいが、スト戦術の判断をするのが中央執行委員会であるとしている「方針案」に対し、小林修正動議は、規約26条を持ち出しながら、判断するのを中央戦術委員会にしていることである。なぜか。ストをしたくない各エリア本部に「判断させる」というわけである。しかしこの小林修正動議は、規約（日本語）の読み方として無理がある。

中央執行委員会が戦術判断等を行うために、中央戦術委員会を置くのである。戦術判断等を行う主語は中央執行委員会である。小林代議員らが誤解しないように、規約ではわざわざ中央戦術委員会は諮問機関であると明記されている。それでも誤解（曲解？）があるようなので、「方針案」で明記したのである。松川代議員（東京上野）が言うような、「方針案には規約に違反する文章がのっている」わけではなく、規約の内容をわざわざ確認したものにすぎない。

### 「闘えない」言い訳と、「闘おう」と粘り強く説得する取り組み

討論では、「癌の組合員が会社や他労組の支えで働いているが、ストライキによって水泡に帰す」（仙台）、「ストライキ提起に、『国労一人の職場で難しい』など積極的な人はいなかった」（米子）、「運転区に四人というのが最大職場。ストライキはすべきではないと思う」（四国）……こんな話を傍聴席で続けて聞かされると、「君ら、地方の指導者だろ？ 組合員の怒りの声を聴いていないのか？ 闘おうと説得できないのか？」と言いたくもなる。

しかし一方で、「本部にストライキを要請し、職場オルグでは分会役員が組合員を丁寧に説得してきた。要求にこだわり、ストを背景に闘いを押し上げる、そういう議論を戦術委ですべきだ」（近畿）、「春闘ストでは賛否両論でまれにみる活発な議論ができた。JRで勝ち取ることがグループ会社や非正規にもつなげられる。山場ではストを含む戦術配置を。委員長の闘争団名誉回復発言の思いを全体で受け止めて、国鉄闘争の総括が必要だ」（千葉）……などの、ストライキ提起によって改めて職場で活発な議論ができたという報告もあり、頑張っているところもあることに勇気づけられる。

組合員の不満、職場の問題をていねいに掘り起して、改善に取り組む。できなければどうするのか、「最後は力が決する」という労働運動のイロハを思い出すしかない。とりわけ二二歳の高崎の代議員の「国労にどうして入ったかよく聞かれるが、『労働条件に納得しないから入った』というしかない。東労組に入っている人たちは、自分の労働条件に関心がない。おじさんたちが中心になって国労の背中を見せていくしかない」という発言は新鮮だった。人の好いおじさんたちが、職場での飯づくりや、趣味の話や、組織対策費を使つての飲み会をどんなに一生懸命やった所で、会社にモノも言えない、闘おうとしない、「旧態依然とした」非民主主義的な労働組合のままであつては、若い人たちは、自分の未来をかけて入ってくれるものではない。

## 「現実に」あわせるだけでは発展はない 書記長答弁

唐澤武臣書記長は、『組織のあり方』については議論を封じるつもりはないが、組合員不在の議論であってはならないし、今は組織拡大が大事。会社による個別分断が行なわれる中で、産業別統一闘争が大切であり、これまでの国労運動を継承していく。

『現実』にあわせるだけでは労働運動の発展はない。会社は企業意識を求めてくるから、職場に労働運動が大切だ。規約26条は、戦術委員会に判断を任せているわけではない。要求実現を目指す闘いのあり方が問われており、その戦術の中にストライキもある。一九年ぶりの春闘スト態勢の準備の中で議論が掘り下げられた。」等と答弁し集約。その後、修正動議二本を少数否決、方針案を採択した。

旧主流派の「運動方針案の補強」路線を、今大会で明確に否決した意味は限りなく大きい。なお、スト権投票は代議員全員賛成であった。

国労本部規約（戦術委員会）第26条中央執行委員会が必要により運動の指導調整と戦術判断を行なうため、諮問機関として中央戦術委員会をおく。2 中央戦術委員会は、中央執行委員会が中央執行委員中より指定した者及び各エリア本部の書記長をもつて構成する。（国労上野反合研）

## 憲法 そして施設障害者抹殺事件

— 脳性マヒ者「茨城青い芝の会」里内さんに聞く —

駅前や国会前でしばしば活動されている脳性まひ者・土浦（茨城県）在住の里内龍史さんは、参議選が終わるや、JR常磐線神立駅前広場でチラシ配りをおこなった。

彼は日頃、「脳性マヒ者は全身マヒで言語障害も多く、たとえどんなに福祉用具が発達しようとして、働くことができない。コミュニケーションがとりにくい障害だから、現代の学歴社会からは排除され、殺されやすい。障害者問題の根本に脳性マヒの問題がある。その運動は障害者だけではなく、すべての抑圧された人々の完全解放を目指す、世界に誇れる人権思想運動だ」と主張し、随所に向いて若者に訴え、住まいを交流の場にもしている。

彼も全身に麻痺があり、時として不随意運動があり言語障害もある。選挙応援演説や当局追及は福祉用具のトレーニングエイドで行う。人の話は全身で受け止め、鋭い指摘が返ってくる。「介護とバリアフリー、社会参加しやすい街づくり」運動に一緒にかわって二十数年、互いにわかり合えた時の彼は、満面の笑顔で体をゆるませ、優しく右手を上げる。

左は、JR常磐線神立駅前広場で、里内さんが乗降客に配ったチラシの全文である。

### 戦争は優生思想を強める

「街角の皆さん、ご苦勞様です。私達は日本脳性マヒ者協会、茨城青い芝の会と言う障害者団体です。私達は脳性マヒ者をはじめとする障害者の人権確立と障害者から見た反戦平和を主張しています。

社会状況は衆議院選挙で与党が圧勝し、改憲勢力が参議院で三分の二に達し、改憲できる議席を得て、戦争を考えている人達によって朝鮮情勢やテロなどで戦争の危機を煽っています。私達の知らない間に日本は戦争モードになっています。

第二次世界大戦後、日本は辛うじて自衛隊を戦争に出さなかったのです。それは

国際的に評価されています。しかし、去年、国民の声を無視して凶行成立した集団的自衛権の行使容認する安保法制は、他国の軍隊と一緒に戦争をするものであり、永久的戦争放棄を定めている憲法第九条を無意味にするものです。

昔から戦争が近づくとうるさく思想が強まり、福祉切捨てが強くなると言われています。現に障害を持った命を否定する受精卵検針が解禁されたり、不幸とされている人を死に導く尊厳死法制化が目への状況など、うるさく思想が強まっています。

また、障害等級が下げられて障害者年金を受けられなくなったりする人達が多く出ています。それは障害者が収入源を絶たれて生活ができなくなり、生存権の保証を定められている憲法25条の違反です。このように改憲は憲法9条だけではなく、憲法に定められているいろんな国民の権利を奪われてしまう恐れがあります。そして、また、昔から戦時下は警察権力が強まると言われています。

警察が土浦駅西口再開発で、歩行者優先の横断歩道を撤去しました。理由は「横断歩道を撤去すれば安全になる」と言っているのですが、それはこれまでの歩行者優先の原則に反しています。障害者や高齢者はどうしろと言うのでしょうか？警察は土浦西口の横断歩道を直そうとしません。その警察の姿勢は第二次世界大戦下の反体制の人達を殺すまでも弾圧した特攻警察につながるのではないでしょうか？

これから改憲が国会で日程に上ってくるでしょう。改憲を阻止しなければなりません。戦争は人間の命と財産を奪い、他人を考えられなくなります。みなさん、共に戦争反対の声をあげましょう。（日本脳性マヒ者協会茨城青い芝の会 里内 龍史）

右、チランをいただいてから十日後、日本中を震撼させた事件が相模原の障害者施設で起こった。この事件に関し、里内さんの思いがどんなか、電話したところ、次のコメントを寄せてくれた。

### 大事件が起きた

なぜ施設内で 相模原の施設障害者抹殺事件の一報は、朝のニュースショーで知りました。一報が入った時に、大事件が起きた、これは大問題になると思いましたが。その時、障害者として怒りを感じました。当初、無差別殺人かと思いましたが、施設という密室で起きた無差別殺人事件としては不自然さを感じました。なぜこのような凄惨な事件が施設という所で起きたか考えました。

施設は障害者が多く生活している所です。これは無差別殺人ではなく障害者年金などで障害者に妬みや恨みを持っている者が施設という障害者が多く生活している所を狙った犯行じゃないかなと思えました。同番組で障害者虐待事件が増えていると報じられました。それは残念ながら二十年前の水戸事件（※1）の教訓が生きていません。

と、いうことは差別が社会全体に蔓延している証拠であり、この事件はうるさく思想が関与している事件だと思います。ノーマライゼーションとかバリアフリーといわれている社会とは裏腹に、毎日のように高齢者や障害者が殺されていると報じられています。だから私は大事件にならなくても予想出来たはずだと思います。

背景とマスコミ その後、ニュースショーの続報でナチズムの影響を受けた人間が起こした犯罪とわかりました。インターネットで在日朝鮮の人たちに対するヘイトスピーチなど、見られるように差別、排外主義が社会に広まっている現状をみれば、ナチ

ズムや日本軍国主義の影響を受けた人間が出てくると思っていました。それは知らず知らずに日本社会が戦時下になっているという意味です。

この事件で、もうひとつ気が付いたのはマスコミの反応です。週明けのテレビのワイドショーではほとんど報道されなかったのです。日本中を震撼させた大事件にも関わらず無責任な対応です。障害者の生命は大切に扱われないということです。

そんなマスコミに対して腹が立ちました。そして亡くなられた障害者の家族の意思とはいえ、氏名を公表しないことは異例な対応であり障害者の命を軽視することです。

家族がまわりとの関係で容疑者に殺された障害者の葬式を満足にやつてもらえなかった人が多くいたと思います。それはノーマライゼーションとかバリアフリーと言われている世の中で障害者の悲しい現状があります。

**ナゼ人格変化** 容疑者の植松は大学時代は特殊教育専攻だったと聞きます。容疑者の植松は少なくとも大学時代は養護学校をめざし、障害児と生きようとしていたはずですが。しかし障害者はいらないから死ねと言うまでになったかという、私はやまゆり園の仕事内容に注目します。

施設内の労働はいわゆる3K労働です。それと障害者全体の外面しか見ていないと思います。植松容疑者は障害者の喜怒哀楽をみられなかったと思います。つまり障害者が疎ましい存在になり人格に変化を起こしたと言えるでしょう。障害者と向き合っていれば人格変化は起こさなかったと思います。

自民党の向井総務会長がこの事件を受け、再発防止策で施設内での警備強化と措置入院のあり方を検討していると報道されたが、それは安易です。障害者の人権を考えず、障害者を施設に隔離すればいいと言う発想を意味し、障害者が地域で人間らしく生きることの否定です。このような対策では、また、こうした凄惨な事件は起きるでしょう。

この事件と昨年十一月の茨城県元教育委員・長谷川智恵子氏の優生思想発言(※2)問題とはつながるものがあります。両方とも障害者の命を軽視することであり、障害者の生存権の否定です。そして受精卵検針や尊厳死法制化の動きに拍車がかかることが心配です。障害者が地域で差別なく、人間らしく生きられる社会の実現を求めます。殺された障害者の冥福と傷ついた人達の日でも早い回復を祈っています。それと共に植松容疑者に深い懺悔を求めます。(コメント・里内 龍史、聞き手・滝野嘉津子)

(※1) 水戸市内知的障害者への暴行・強姦事件。裁判過程で、行政・司法当局の無理解が明るみに。  
(※2) 「妊娠初期に障害の有無が分かれば、障害児の出産を減らせる」という趣旨の発言。翌日、発言を撤回し謝罪したものの、県や県教委に対し、里内さんから障害者団体などが抗議し、県内外からの抗議も相次ぎ、県教委は、長谷川氏の辞職願に同意した。

## ◇ 読者からのおたより ◇

「紙仕様人間」 インターネット時代になっても、紙仕様人間の私は、郵送購読にてお手数をおかけしました。長い間ご苦労さまでした。これからもよろしく。(自治労・M)

編集部より こちらこそ、労働者の歴史的任務への確信をつくる、これが肝心。

ありがとう 長い間ありがとうございました。HP活用させていただきます。

編集部より いつも多額のカンパと激励、感謝です。HPを活用くださること、嬉しいです。(横浜・H)

交流場所づくり 交流の場所を作られるのはいかがでしょう。知恵を集めることにもなりますし、こんなこと知りたい！ と載せれば、答えられる方が出ましようし…、集まりませんか？ も出てくるかもしれません。力を集めるのにやぶさかではない時期ではないでしょうか？ (大阪・K)

編集より 提言ありがとうございます。運営など不安もありますが、実現できるようながんばってみます。最優先課題 貴誌1222号の記事、「デフレ」とは慢性的恐慌である「は、たいへん勉強になります。記事でありました。現代資本主義をそうした視点から捉え直すことが大切な時期だと痛感しています。なお最近安倍はデフレからの脱却が最優先課題というスローガンを挙げています、彼には良い参謀が付いているのでしょね。これに対する私達の最優先課題は、やはり経済・労働問題だと思います。春闘再構築のあり方が最大の私達の課題だと思います。戦争・平和・憲法の問題は実は経済の問題だからです。御奮闘を祈ります。(東京・鈴木賢二)

編集より うれしいお便り。投稿よろしく。

長い間の積み重ね 社会通信の最近の読者の声は郵送をやめることに対する残念な声が多いですね。長い間の積み重ねが手に取るようにわかります。(野田市議・おさなみ博邦)

編集より 通信四〇年。信頼のおかげ、ありがとうございます。

お礼 八月・十月の三ヶ月分プラスお礼です。(兵庫県加東市・H)

編集部より 誌代、そしてカンパありがとうございます。

悪質 資料送ります。こちらで担当の手伝いをしています。債務者リスト(要するに、奨学金を返さない)とブラックリストにのせてしまふ。応じる「契約書」まで書かせているので、一般よりもはるかに悪質です。(埼玉・K)

編集部より ソコマデやるんですか。高利貸しよりも「もつと悪質」。

小林さん そして道新 本日七月二五日朝早くに、新潟の小林義昭さん(新潟港フェリーで小樽港)が我が家に来ました。その後、小林さんの車でKさん(札幌の大きな病院)に会ってきました。しばらくは治療のため、入院が続くと思いますが、もつともつと回復してほしいと強く願っています。小林さんは天塩川に向かいました。七月三十一日には遠軽町丸瀬布(オホーツク管内)から札幌へ。夕方以降には「三々四人」(プラスα)で会い、我が家に泊まることになっています。

「北海道新聞」七月一日(月)夕刊・七月一八日(月)のコピーを入れました。(札幌・松里福慈) 編集部より 小林さんからの携帯メールで、二人のいい表情の写真も拝見。連絡と資料に感謝！ 労働相談 五月の労働相談はパワハラ、雇止め、解雇、使用期間延長、賃金不払い、社会保険未加入など、組合結成や就職の相談など。その中で、会社に対し解雇撤回の要求をもつて闘うことになったのはたつたの一件、タクシীর運転手で仕事中にガードレールにぶつかり、修理は保険で直したが損害賠償請求と解雇ということで相談。解雇撤回で争議の準備中です。(茨城ユニオン) 忘れられない日 十一年三月十一日に続く十六年四月十四日は、鹿児島県民にとつて忘れられない日となるでしょう。全国唯一運転を続ける川内原発関係機関が、平然と「異常なし」(九電)、一九電が「異常なし」なので問題なし(県市)と言いつける日として…これが鹿児島島の現状であり土壌です。皆さま！「まちづくり8・6ニュース」に、「まちづくり県民会議」の活動に、お力添えを！(鹿児島・「まちづくり8・6ニュース」抜粋)

暗黒時代に突入の危機 参院選で維新を含む憲法改悪政党が三分の二を超え、日本は一気に暗黒時代突入の危機です。「あたらしい(自民党)憲法草案のはなし」には次のような説明が出てきます。

いままでの九条は戦争をしないためのブレーキでしたが、あたらしい九条は戦争をしやすくするためのアクセルといつてもいいでしょう。自民党はこれを「積極的平和主義」と呼んでいます。アメリカに一人前の国とみとめてもらうためには、なにがなんでも日本は他国とつしよに戦争に参加しなければなりません。そしてできれば、日本の兵士とも一人か二人、死んでもらう必要があるのです。十三条の「個人」を「人」としたのは、ひとりひとりの個性や考えかたはどうでもよく、人間としてあつかえばそれでよろしい、という意味です。きよくたんにいうと、動物あつかい(おりにとじこめる。くさりでつなぐなど)しなければ、それでよいのです。

こんな自民党改憲草案を認めるわけにはいきません。平和憲法は私の原点、その素晴らしさを訴え続けていきます。(大阪府茨木市議・山下けいき)

「労」はすてられた 結局、生産性向上に協力させられただけの「政労使会議」。「労」は捨てられた。だから大手企業の労働組合は賃上げ要求を抑え、中小下請けの賃金を底上げする格差是正の独自性を打ち出した？ アベさん心の叫びで笛を吹き、クロダバズーカー太鼓で調子とる。しかし、「笛吹けど踊らず」「官製春闘三年目」。(全労協)四月一日号)